篠栗歴史遍路編［その5］

ささぐり紀行

第69番札所 高田観音堂

その五十二

高田阿弥陀堂から北西へ上って行くと、高田区原の観音堂へ至ります。背後にはベンタナヒルズの1号館が見えます。

ここがいつ69番札所となったのかについては研究が進んでいませんが、堂内に「三界萬霊（さんがいばんれい）」の石塔があることから、古くから聖なる場所とされていたと思われます。

本尊は現在2体あります。右の石仏が古い本尊で、左の木造仏が新しい本尊でしょう。堂内の右上に掲げられた額を読むと、新しい金色の本尊像は大正15年3月26日に田村安吉さんら15人が発起世話人となって奉納したとわかります。

田村安吉さんは高田柿ノ木の37番札所の本尊も奉納しています。ほかの札所にも仏像を寄進しているかもしれませんので、興味のある方は探してみてください。

篠栗の大正時代は、こうした金色の仏像があちこちの札所に奉納されるなど、多くのお遍路さんでにぎわったようです。

三界萬霊塔の後ろにある棟札を読むと、高田観音堂は大正3年に新築されたと分かります。

また、堂の前には「四国道」の方向を教えてくれる道標がありますが、これは大正5年に設置されています。

大正13年には一気に15体もの石仏が奉納されたようです。本堂の右手にある堂には亡くなった人を供養する十三仏と毘沙門天（びしゃもんてん）、弘法大師の像が並んでいます。大師像はひときわ大きく、これが十三仏堂の本尊と言えるでしょう。台座の正面には次の銘があります。

寄附者芳名世話人

一金拾円　長沢平一郎
一金拾円　仝　次兵エ
一金拾円　柳池岩吉
一敷地　藤作太郎
本尊弘法大師
一金五円　藤健造
一金五円　長沢熊吉
一金三円　関　喜造
一金弐円　長沢ナヲ
柳池佐一郎

長澤さんと柳池さんが中心となって奉安したようです。毘沙門天の台座正面には

大正十三年
三月
柳池岩吉
仝　ソノ

とあり、やはり柳池岩吉さんの名前が見えます。

ところで、この札所で目を引くのは堂内の子安観音像です。「子は宝」と教えられる造形です。

これは博多の池田千代吉さんら13人が発起世話人となって昭和5年に奉納したもので、境内の花壇に立つ円柱型の石塔「子安観世音菩薩安置寄付芳名碑」に寄付した人の名前と金額がびっしりと刻まれています。

日仏共同篠栗民俗調査団
慶應義塾大学非常勤講師
中山　和久